

診療看護師及び救急救命士を活用した救急外来の効率的運用と経営改善効果の検証

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。このような研究は、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るかわりに、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表しません。この研究は、研究開始にあたり倫理審査の承認を得ています。

1. 研究の対象者

2026年4月～2028年3月で平日日中に当院に救急搬送された方

当院での予定参加者数：10000名

研究参加期間：2年

2. 研究期間

2026年4月～2028年3月31日まで

3. 研究の目的・方法

救急外来における患者数は年々増加傾向にあり、当院でも医師の長時間労働や待機時間の増大に加え、受入制限により経営的にも機会損失が生じています。米国では**診療看護師**（NP）が救急外来で医師・看護師と協働し診療効率を高めています。また、令和3年の法改正により**救急救命士**が病院内で救急処置を行うことが可能となり、病院機能強化に資する人的資源として期待されていますが、両者の役割分担や経営的インパクトについては未だ十分に検証されていない現状があります。

本研究では、NP および救急救命士が救急外来において医師・看護師と協働し、主として一次・二次救急患者に対するトリアージ業務を担うことにより、救急受入患者数を増加させ、医療の質を担保できるかどうかを明らかにすることで科学的な根拠を踏まえた診療と効率的な医療政策につなげることを目標としています。

4. 情報の利用目的、利用方法、他機関への提供方法

この研究で収集する情報は本研究の研究者によって解析され、研究成果は学会や論文で公表される予定です。研究データは、個人を特定できないように研究用の登録番号を用いて管理します。患者さんと登録番号を照合する対照表は当院の個人情報管理者が厳重に保管します。研究成果が公表される際に名前や住所など患者さんを特定する情報が公開されることは一切ありません。また、本研究実施に関わる他の機関へ情報を提供する場合でも、患者さん個人を特定できないようにして情報提供します。この研究の関係者および規制当局の担当者が、あなたの人権が守られているか、適切に研究が行われ

ているかなどを確認するために、あなたの診療に関する記録を閲覧することがあります。しかし、これらの関係者には秘密を守る義務が課せられており、あなたのプライバシーはどのような場合でも守られます。

なお、研究データや研究成果は研究を実施する研究機関や研究者に帰属します。

利用する情報の項目

病名、年齢、性別、人種、受診日、主訴、病歴、既往歴等

4.1. 利用・提供する予定日

当院での提供開始予定日：2026年4月頃

5. 研究組織

研究代表者：東北労災病院 救急科 部長 赤田 昌紀

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら以下の連絡先までお問い合わせください。

➤ 研究に関するお問い合わせ

東北労災病院 救急科 赤田 昌紀、川村 美弥子 電話番号：022-275-1111 (代)